

---

# かりゆしフィロソフィ手帳

---

「かりゆしフィロソフィ手帳」発刊によせて  
かりゆしグループ  
オーナー会長 平良朝敬

1962年、那覇市若狭の埋立地に父平良盛三郎と母スミ子が客室14室の「沖乃島観光ホテル」の看板を掲げたのを皮切りに、現在はラグジュアリー、リゾート、ローコストと分類も多岐にわたる客室合計924室、計7ホテルと9つの関連企業で構成される「かりゆしグループ」となりました。

2020年、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、2019年には1000万人を超えていた沖縄県の入域観光客数は301万人（内インバウンドは0）となり、2020年度だけでも経済損失額は6482億円と今までにない大打撃を受けました。

我がグループでも例に漏れず深刻な

影響を受けておりますが、ピンチをチャンスに変え立ち止まらずに質の高い沖縄観光の魅力向上へ繋げて行けるよう動き続けなければなりません。

2022年、沖縄が日本復帰50周年を、我が社が創業60周年を迎える今年、早い周期で変異する新型コロナウイルスとの共生を模索する中、感染予防に努めながら経済活動もようやく再開されました。更にコロナを通し、人々の働き方やライフスタイル等の変化が急速に進んだ事で、ニューノーマルへの対応力が求められ、かりゆしグループ全体で心をつなげてこの難局を乗り越える為に、原点に立ち返り一歩ずつ前へ進み「第2の創業」の年の始まりとし、スローガンに「原点回帰」を掲げました。

かりゆしグループの社員全員が同じ方向・目標に向かう為に「かりゆしグループ経営理念」と「かりゆしグループ企業憲章」をこれまでも掲げておりますが、更に「かりゆしフィロソフィ」がこの度、創業60周年の節目に策定されました。

この「かりゆしフィロソフィ」はかりゆしグループの全社員が、考え方や価値観を共有し、この哲学をベースに行動するための、共通の判断基準・指針となります。

かりゆしグループ全社員で、「かりゆしフィロソフィ」が指し示す方向へ考え方を揃え、経営を進めていけるように、フィロソフィを真摯に学びましょう。

仕事に限らず皆さんが人生を歩んでいく中で、この「かりゆしフィロソフィ」を多いに役立てていただきたいと願っています。一社会人、一人間として自分自身を創り上げていく上で、大切な何かに気づかせてくれるはずです。

「かりゆしフィロソフィ」が掲げる「すばらしい人生を送り、すばらしいかりゆしとなるために」皆で心を合わせ、フィロソフィを実践していくことで、社員の皆様が大きく成長する姿を今後楽しみにしております。

2022年10月

## 「かりゆし第2の創業」の始まりに

株式会社かりゆし

代表取締役社長 玉城智司

我が社は沖縄県内の各エリアに渡り、ラグジュアリー、リゾート、バケーションといったジャンル別のホテルを運営する「株式会社かりゆし」と、9つの関連企業で構成される「かりゆしグループ」となり、地元資本企業として沖縄のリーディング産業である観光を牽引しつつ、お客様に心から喜ばれる最高のサービスと感動をお届けするべく努力して参りました。

しかし、2020年に新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、経済活動が止まり、経済損失は今までにない大打撃を受け、国内観光客減少や海外インバウンドの姿が消失しました。

2022年、かりゆし創業60周年を迎え

る今年は、新型コロナウイルス感染症への予防対策やワクチン接種等により、国内の観光客は戻りつつあり沖縄観光へ光明が差し始めております。

これまで経験した事のない難局をチャンスと捉えて乗り越えるべく、今年「原点回帰」をスローガンに掲げました。

宿泊してみたいと選ばれるホテルを目指し、信頼し合える仲間とともに誇りを持って働ける職場である為にも、かりゆしグループで働く全員で同じ方向、意識、価値観、目標を共有し、行動する為の指標に「かりゆしグループ経営理念」と「かりゆしグループ企業憲章」がありますが、更に「かりゆしフィロソフィ」を策定しました。

「かりゆしフィロソフィ」とは、かりゆしグループがどのような考え方、どのような哲学をベースに経営されるかを示す指

針となり、皆さんに『すばらしい人生を送って頂きたい』、そして『誇り高いかりゆしを創る』ためにどうあるべきかをそれぞれ部、章ごとに表記しております。

かりゆしグループの社員、役員、全員でフィロソフィを共有し、繰り返し学び、実践していくことが重要だと考えております。

心をひとつに、信頼し合える仲間となって、かりゆしで働くことに誇りを持ち、これからも沖縄観光を牽引する企業として進むべく、「かりゆし第2の創業」の始まりの年に「かりゆしフィロソフィ」が策定された事は感慨深いものがあります。

最後になりますが、日本航空(株)より出向頂いた親泊氏が、我が社において、人財育成の為の環境整備、キャリア形成というサイクル（循環）にも視点を置き、継続的で浸透性のある人財育成を構築、



実践、そして今回「かりゆしフィロソフィ」策定へと、ご尽力頂きましたことに心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のまん延により、人々の働き方やライフスタイルなど変化が急速に進んでおります。また、サステナブルな観光地としての魅力創出、SDGs 普及活動、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進など、我が社も進化しホテルの魅力度を高めていかなくってはなりません。そのためにはかりゆしグループで働く皆さん一人ひとりの力が必要です。

「かりゆしフィロソフィ」を指針に一致団結した束となり、「かりゆし第2の創業」とし、大きな一歩を踏み出して参りましょう。

2022年10月

## 目次

「かりゆしフィロソフィ手帳」発刊によせて…	2
「かりゆし第2の創業」の始まりに ……………	6
経営理念……………	15
企業行動憲章……………	17
第1部：すばらしい人生を送るために……………	19
<b>第1章 成功方程式(人生・仕事の方程式) ……………</b>	<b>21</b>
人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力……………	23
<b>第2章 正しい考え方をもつ……………</b>	<b>25</b>
人間として何が正しいかで判断する……………	27
美しい心をもつ……………	28
常に謙虚に素直な心で……………	30
常に明るく前向きに……………	32
小善 <small>しょうぜん</small> は大悪 <small>だいあく</small> に似たり、大善 <small>だいぜん</small> は非情に似たり……………	34
ものごとをシンプルにとらえる……………	37
対極をあわせもつ……………	38
<b>第3章 熱意をもって地味な努力を続ける……………</b>	<b>41</b>
真面目に一生懸命仕事に打ち込む……………	42

地味な努力を積み重ねる……………	44
パーフェクトを目指す……………	46

<b>第4章 能力は必ず進歩する……………</b>	<b>49</b>
能力は必ず進歩する……………	51

<b>第2部：すばらしいかりゆしとなるために……………</b>	<b>53</b>
---------------------------------	-----------

<b>第1章 一人ひとりがかりゆし……………</b>	<b>55</b>
一人ひとりがかりゆし……………	56
本音でぶつかれ……………	58
率先垂範する……………	61
お客さまに幸せと癒し、感動をお届けする仕事……………	62
感謝の気持ちをもつ……………	65
お客さま視点を貫く……………	66

<b>第2章 採算意識を高める……………</b>	<b>69</b>
売上を最大に、経費を最小に……………	70
採算意識を高める……………	72
公明正大に利益を追求する……………	75
正しい数字をもとに経営を行う……………	76

<b>第3章 心をひとつにする</b> .....	79
最高のバトンタッチ.....	80
ベクトルを合わせる.....	83
現場主義に徹する.....	84
真のリーダーになる.....	87
<b>第4章 自律型集団になる</b> .....	89
自ら燃える.....	90
渦の中心になれ.....	92
強い持続した願望をもつ.....	95
成功するまであきらめない.....	96
有言実行でことにあたる.....	99
スピード感をもって決断し行動する.....	101
真の勇気をもつ.....	102
<b>第5章 常に挑戦する</b> .....	105
昨日よりは今日、今日よりは明日.....	106
楽観的に構想し、悲観的に計画し、 楽観的に実行する.....	108
見えてくるまで考え抜く.....	111
果敢に挑戦する.....	112
高い目標をもつ.....	114

## 《 かりゆしフィロソフィとは 》

---

京セラ、第二電電(現KDDI)創業者であり、日本航空再建に携わった稲盛和夫氏の哲学を基に、かりゆし創業60周年の節目に、かりゆし版フィロソフィとして策定しました。

かりゆしグループで働く全員がこのフィロソフィを根幹にものごとをとらえ、意識・価値観・考え方のベクトルを合わせることで、仕事、そして人生をより豊かなものにしていくための考え方の指針として示したものです。

---

地球の宿  
志 癒 瑞 幸

志して

一生を癒し

喜びは

玻璃のごとく

輝く

目的を立てる事により

生涯の悩みを解消し

幸せが

水晶のように

永遠に輝く

海地 空天

海より 命と授かり

地にて 場所と地位を得

空にて 空間と時間を得

天から 幸せの光が降りそそぐ

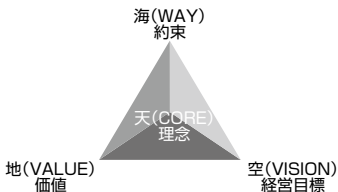
## 経営理念

私たちかりゆしグループは、経営理念を正三角錐の立体で明確化し、その4つの理念を社員全員が達成します。

「人」「夢」「未来」を大切にし、感謝の心を持って「夢・創造企業」を目指します。

かりゆしグループ  
オーナー会長 平良朝敬

### かりゆしグループ経営理念



- 海** かりゆしの約束(WAY)  
お客様への約束である
- 地** かりゆし価値(VALUE)  
行動指針となる
- 空** かりゆし経営目標(VISION)  
経営の目標である
- 天** かりゆし理念(CORE)  
社会における存在意識を示す

## かりゆしの約束 (WAY)

### 「海」

確かな品質、高い技術、癒しの空間、  
豊かな感動をお客様に届ける。

## かりゆし価値 (VALUE)

### 「地」

かりゆしグループのスタッフが夢を想像し  
創造するため価値観を共有します。

- 1.目標達成への熱意
- 2.変化し挑戦する
- 3.改革への取り組み
- 4.好奇心旺盛
- 5.誠実で公正な行動
- 6.品質向上
- 7.無駄の徹底排除
- 8.人材から人財
- 9.社会参加
- 10.社会・環境奉仕

## かりゆし経営目標 (VISION)

### 「空」

私たちはグローバルNO.1サービスを目指し、  
お客様に幸せと感動を持続的にお届けし、  
観光企業におけるグローバルリーダーと  
なることを志します。

## かりゆし理念 (CORE)

### 「天」

私たちは、優れた接客とサービスを通じて、  
世界中の人々に幸せと癒しを  
もたらす事に貢献します。



## 社 訓

和

明るい職場は

『おはよう』の挨拶から

真心

よいおもてなしは

小さな『心遣い』から

努力

会社の繁栄は

一人一人の『力』から

感謝

すべての行為は

『かりゆしの心』から

## 社員の心得

一、和・真心・  
努力・感謝

この四者は古くして新しい我がグループのモットーです。

一、全員体制

私達は、かりゆしグループの一員であることに誇りを持ち、心を一つにし一致協力します。

一、規 律

お互いに目的を達成する為に規律を遵守し、職場環境の改善に努めます。

一、誠心誠意

私達は、感謝の気持ちを持ってお客様に満足のおサービスを努めます。

一、信 頼

衛生、安全はホテルの生命です。整理整頓、身だしなみ、健康状態にいたるまで自己管理に努めます。

一、原価意識

会社の備品は全て財産です。経費、コストに対し常に意識を持ちムダを排除します。

一、社会参加

社会人として唯一あたえられた一票を大切に、私達未来の幸せの為に積極的に参加します。

一、社会奉仕

社会の一員として、日々人間愛に尽くすべく行動を行います。

一、環境奉仕

あらゆる生命との共存の為に私達一人ひとりが地球愛を育んでいきます。

一、夢・創造

夢を語る人になりたい。語り合いの中から連帯が生まれます。生きがいのある職場に価値のある人生の創造を目指します。



## 第 1 部

すばらしい人生を送るために







## 人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力

人生や仕事の結果は、「考え方」と「熱意」と「能力」の3つの要素の掛け算で決まります。この「能力」と「熱意」は、それぞれ0点から100点まであり、それを掛け合わせます。そうすると、自分の能力を鼻にかけ努力を怠った人よりも、自分には大した能力はないと思って誰よりも情熱を燃やして努力した人の方が、はるかにすばらしい結果を残すことになります。

そして、これに「考え方」が掛かります。考え方とは、生きる姿勢であり、マイナス100点からプラス100点まであります。掛け算ですから、わずかばかりの否定的な考え方であったとしても、人生の結果はすべてマイナスになってしまいます。

能力や熱意とともに、人間として正しい考え方をもつことが何より大切になるのです。









## 人間として何が正しいかで判断する

フィロソフィの根本にあるのは、「人間として何が正しいか」ということです。

「正直であれ」「うそをつくな」「人を騙すな」「約束を守る」「他人を思いやる」といったような、子供の頃、親や学校の先生から教わった非常にベーシックな道德観のことでもあります。「なんだ、あたりまえのことではないか」と感じるぐらい当然のことに思えますが、実際にこのことを100パーセント実行できている人はいないのではないのでしょうか。

常に「人間として何が正しいか」を自らに問い、勇気をもって正しいことを貫いていくことが大切なのです。

## 美しい心をもつ

何かを決めようとするときに、少しでも自分の都合を優先して考えてしまえば判断はくもり、その結果は間違った方向へ向かってしまいます。人はとにかく自分の利益となる方に偏<sup>かたよ</sup>った考え方をしてしまいがちです。みんながお互いに相手への思いやりを忘れ、「私」というものを出していくと、周囲の協力も得られず、仕事はスムーズに進んでいきません。

ある哲学者は、人の心には「善<sup>よ</sup>い心」と「悪い心」が同居していると言っています。「善い心」とは、思いやりと愛に満ちた、お客さまや仲間など他人を思いやる「利他の心」です。一方、「悪い心」とは、「自分だけ良ければいい」といったエゴに満ちた「利己の心」です。

私たちは、自分の心の中に、少しで

もこの「善い心」を増やし、「悪い心」を減らすよう努力しなければなりません。

自分だけのことを考えるのではなく、まわりの人のことを考え、思いやりと愛に満ちた美しい心をもつように努力していけば、必ずすばらしい人生を歩んでいけるのです。

## 常に謙虚に素直な心で

人間の心は、自分の欲望を満たそうとする利己的な側面をもっています。そして、何か問題が起きれば、自分を責めるよりも他人を責めたり、他者に責任転嫁し、「そんなはずはない」「そんなつもりはない」と自己弁護しがちです。人から注意されること、指摘されることは、誰にとっても辛いことです。

しかし、その気持ちを抑えてまずは謙虚に受け入れてみましょう。そうすれば何か自分に問題があることに気付くのではないのでしょうか。

私たち一人ひとりの言動が、間違いなくこれからのかりゆしのイメージをつくっていきます。

私たちは、常に謙虚に素直な心で、自らを反省し、あるべき姿を目指して努力することが必要です。

そのような心をもつ人は、他人のアドバイスを素直に受け入れることができ、乾いた砂が水を吸い込むように、多くのことを吸収し、成長・進歩を遂げることができるのです。

## 常に明るく前向きに

自分の未来に希望を抱いて、明るく積極的に行動していくことが、仕事や人生をよりよくするために大切です。

人生においては、一生懸命努力してもなかなかうまくいかないこともあるかもしれません。そのとき、理由を外に求めて不平不満を言うのではなく、ピンチも自分を成長させるチャンスととらえ、明るく前向きに真正面から困難に挑戦していくのです。どんな現象でも見方によって、悪い方に、マイナスに受け止めることもできれば、前向きに、プラスに受け止めることもできます。

そうであれば私たちは、何が起きても、常に明るい気持ちをもち続けながら、一生懸命努力を重ねていくべきではないでしょうか。なぜなら、どんな困難な状況であっても、明るく前向き



に努力することで必ず克服できるからです。まさに自分の心のもち方次第で結果は変わっていくのです。

また、私たちが常に明るく前向きな気持ちであれば、一緒に働くまわりの仲間にも笑顔がひろがり、お客さまにも幸せな気持ちでご利用いただくことができるのです。

しょうぜん だいあく                      だいぜん  
小善は大悪に似たり、大善は非情に似たり

人間関係の基本は、愛情をもって接することにあります。しかしそれは溺愛であってはなりません。自分の子供がかわいばかりに溺愛し、甘やかし放題に育てたところ、その子供が成長したときにはかえってダメな大人に育ってしまった、ということがあります。子供をかわいがるという小善をなしたことが、結局当人にとって大悪をなしたことになったのです。

職場における上司と部下の関係であっても同じです。信念もなく部下に迎合し、けいこう 厳しいことを言わない上司は、一見愛情深いように見えますが、結果として部下をダメにしていきます。逆に信念をもって厳しく指導する上司は、けむたく感じられるかもしれませんが、長い目で見れば部下を大きく成長させることになります。これが

大善です。大善を行うことは一見、薄情な行為に映ります。このことを「大善は非情に似たり」という言葉は表しています。

真の愛情とは、どうあることが相手にとって本当に良いのかを、愛をもって見極めることなのです。



## ものごとをシンプルにとらえる

私たちはともすると、ものごとを複雑に考えてしまう傾向があります。しかし、ものごとの本質をとらえるためには、実は複雑な現象をシンプルにとらえなおすことが必要なのです。事象は単純にすればするほど本来の姿、すなわち真理に近づいていきます。

例えば、一見複雑に思える経営というものも、突き詰めてみれば「売上を最大に、経費を最小に」という単純な原則に尽きるのです。

いかにして複雑なものをシンプルにとらえなおすかという考え方や発想が大切です。私たちの日々の仕事の中にも、複雑だと思い込んで難しく考えてしまっている部分があります。表面的な事象に惑わされることなく、ものごとをシンプルにとらえれば、本質を踏まえた正しい判断ができるのです。

## 対極をあわせもつ

合理性と人間性、大胆さと細心さ、やさしさと厳しさ、どれも一見、相反する性質ですが、人はこの両極端をあわせもち、正常に機能させることによって、初めて完全な仕事ができるようになります。

この『対極をあわせもつ』ということは、「中庸」をいうのではありません。どちらかに偏かたよってもいけませんし、足して2で割った真ん中をとるということでもありません。この両極端を兼ね備え、場面に応じて必要な性質が使い分けられるよう心がけていくことが大切です。

例えば、私たちがすばらしい仕事をしていくためには、科学者のような合理性と、誰からも親しまれる豊かな人間性を兼ね備えていなければなりません。

つまり目標を達成するための具体的

な計画を立てる際には、徹底的に論理的に考えていかなければなりません。それを達成するためには、人間的なすばらしい魅力をもって、周囲の人を巻き込むことが必要なのです。

このように論理性を徹底的に追求する合理性と、人を惹き込むような温かみのある人間性という対極にある性質をあわせもつことによって、人間力を高め、ひいては完璧な仕事ができるようになるのです。





## 第3章

### 熱意をもって 地味な努力を続ける



「人生・仕事の方程式」のとおり、  
すばらしい結果を得るためには、燃えるような熱意をもって、誰にも負けない努力をすることが大切です。



## 真面目に一生懸命仕事に打ち込む

一生懸命に働くということは、勤勉であるということであり、仕事に対する態度が常に誠実であるということです。

仕事によっては、「このような地味な仕事に一生懸命取り組んでも誰も評価してくれないのではないか」と思うことがあるかもしれませんが。しかし、真面目に一生懸命仕事に打ち込み続けた人は、その仕事に精通し、素晴らしい仕事ができるようになります。

私たちの中にもこの域に達している人がいるのではないのでしょうか。

真面目に一生懸命仕事に打ち込み<sup>つ</sup>続けていくことで、ものごとの本質を掴むことができるようになり、そのような人はリーダーとしても大成していけるのです。

また、真面目に一生懸命仕事に打ち

込むことにより、私たちは自らの人格を高め、自分の人生をよりよいものにしていくことができます。

## 地味な努力を積み重ねる

どんなに偉大なことも、地味な努力の一步一步の積み重ねでしか達成できません。人生において大きな仕事を成し遂げようとした場合、一気に目的地に辿り着けるような便利な方法はないのです。

しかし、地味な努力を続けるといっても簡単ではありません。私たちは「こんなことを続けていて何になるのだろうか。このままでは全く進歩がないのではないか」と思ってしまいがちです。そのようなときでも、地味な努力を続けていくためには、「仕事を好きになる」ことが大切です。仕事を好きになれば、傍からは苦勞はたと見えることでも、本人には苦勞ではなくなります。

私たちは、かりゆしで働くと決めて集つどった仲間です。日々の仕事の中では

辛く感じるときもあるかもしれませんが、働き始めたときの気持ちを思い起こして、地味な努力を積み重ねていきましょう。それが必ず私たちを成長させるのです。

毎日苦労を重ねていく中で、思いがけずお客さまからかけていただき、励ましやお礼の言葉に胸が熱くなった人もいるでしょう。このようなお客さまの激励や感謝の言葉も、一生懸命仕事に打ち込み、地味な努力を続ける原動力となるのです。

## パーフェクトを目指す

よく90パーセントくらいうまくいくと「これでいいだろう」と妥協してしまう人がいます。しかし、私たちは、仕事では常にパーフェクトを求めなければなりません。

私たちの仕事はさまざまな部門の一人ひとりがプロとして完璧な仕事をして初めて完成するものです。もし、途中のどこかでひとりでも「これでいいや」という考えで仕事をする人がいたら、お客さまの期待にこたえられず、それまでの仲間の苦労を台無しにしまいます。また、このことが安全に関わる現場で発生した場合には、大きなトラブルや事故につながってしまう可能性もあります。

直接接客に関わらない間接部門の社員も同様です。会議の資料を作成するとき、現場に新しいやり方を連絡する

とき、経理処理をするときに、ミスは後で修正できると考えるのではなく、最初からパーフェクトを目指さなければなりません。実際には人間ですから、すべてがすべてパーフェクト、ということは難しいかもしれません。しかし、最初からパーフェクトを目指して厳しく仕事に取り組むのと、適当なところで妥協してしまうのでは、結果に大きな差が生じてしまいます。

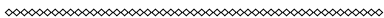
常に自分の理想とするパーフェクトな姿を思い描き、それを目指して努力していくことで、自分自身も高められ、結果として最高のサービスや商品を提供することができるのです。





## 第4章

# 能力は必ず進歩する



私たちは、能力は生まれながらに決まっていると考えてしまいがちですが、自分自身に打ち克って精進していけば、能力は必ず進歩すると考えることが大切です。





## 能力は必ず進歩する

仕事において何か新しいことを成し遂げようとするときは、まず自分の可能性を信じる必要があります。私たちは、現在の能力をもって、いとも簡単に「それは無理です。できません」と言ってしまいがちですが、それでは新しいことや困難なことはできません。

私たちの能力は一定ではないのです。能力は必ず進歩します。そのためには、人間の能力には無限の可能性があると信じ、地味な努力を積み重ね、創意工夫を続けていくしかありません。そうすれば能力は進歩し、最初はとてもしないと思ったような新しいことや、困難なことでも成し遂げることができるようになるのです。

人間には無限の可能性があると信じ、勇気をもって挑戦する姿勢が大切です。



## 第 2 部

すばらしいかりゆしとなるために





## 一人ひとりがかりゆし

将来にわたってかりゆしをすばらしい会社にしていくためには、私たち一人ひとりが、それぞれのもち場・立場で自分たちの果たすべき役割を精一杯やり遂げていくしかありません。

誰かがやってくれるだろうと眺めているだけの「傍観者」<sup>ぼうかんしゃ</sup>や、批判のコメントばかりして自らは動かない「評論家」ではいけません。まず自分自身の果たすべき役割を認識し、自ら努力してやり遂げるという姿勢をもたなければならないのです。私たち一人ひとりが考え、泥臭くても、しっかり実行していくこと、それがそのまま明日のかりゆしへとつながっていきます。

職場でも、普段の暮らしの中でも、私たち一人ひとりの立ち居振る舞いが、そのままかりゆしのイメージへとつながっていきます。



もしあなたが思いやりのある優しい心を忘れて行動するなら、かりゆしは優しさのない会社になってしまいます。もしあなたが、かりゆしをすばらしい会社にしたいと願い、自分自身の役割を認識し、自ら考え行動して、努力を重ねていけば、かりゆしは願ったとおりのすばらしい会社へと変わっていきます。

私たち一人ひとりが何を思い、実行していくか、それがこれからのかりゆしの新しい歴史を創っていく、まさに私たち一人ひとりがかりゆしなのです。

## 本音でぶつかれ

責任をもって仕事をやり遂げていくためには、その仕事に関係している人たちが、「今の仕事をもっと良いものにしたい」、「もっと良い会社になりたい」という前向きな姿勢で、それがたとえ上司に対してであっても、問題点を本音で遠慮なく言える風土が必要です。

日常の業務の中で、ものごとを「なあなあ」で済まさず、「どこか変だ」「何かおかしい」と感じたときには、互いにそれを指摘しあいましょう。

絶えず「誰が正しいか」ではなく「何が正しいか」に基づいて議論することで、本音でぶつかることができるのです。問題点に気付いていながら、周囲との軋轢あつれきや人に嫌われることを恐れて、それを指摘せずに穏便に済ませようとするのは大きな間違いです。

建前や常識論でいい仕事ができるわけがありません。勇気をもって、本音でぶつかり、本音で指摘しあう風土を創っていくことが大切です。

「かりゆしをもっと良くしたい」という善意に基づいて、本音で語りあっていけば、お互いの理解も深まり信頼関係が築かれて、すばらしい仕事ができるようになるのです。



仕事をする上で部下やまわりの人たちの協力を得るためには、率先垂範でなければなりません。人の嫌がるような仕事も真っ先に取り組んでいく姿勢が必要です。どんなに多くの、どんなに美しい言葉を並べたとしても、行動が伴わなければ人の心をとらえることはできません。自分が他の人にしてほしいと思うことを、自ら真っ先に行動し、「背中を示す」ことによって、まわりの人たちもついてきてくれるのです。

率先垂範するには勇気と信念がいますが、これを常に心がけ実行することによって、自らの人間性や能力を高めていくこともできるのです。人の上に立つ人はもちろんのこと、すべての人が率先垂範する職場風土をつくっていきましょう。そうすることで、全社員がいきいきと働ける会社になっていけるのです。

## お客さまに幸せと癒し、感動をお届けする仕事

私たちの仕事は、迎恩の心を大切に、優れた接客とサービスを通じて世界中の人々に幸せと癒しをもたらすこと、感動を持続的にお届けすることです。

1962年10月、当時の沖縄では数少ない「観光」ホテルとして沖ノ島観光ホテルが創業されました。かりゆしグループの歩みはここからスタートし、以来60年間、沖縄の観光業を牽引し地元寄り添い、お客さまの笑顔と共に私たちは歩んできました。かりゆしを訪れてくださったお客さまに感謝の気持ちで最高のサービスをお届けすることは、私たちの誇りであり、社会への貢献にも繋がります。

私たちは常にイベントリスクに立ち向かっていかなければなりません。創意工夫を重ね、苦境を乗り越え、挑戦

し続けていきましょう。

歴史ある地元企業としての誇りを忘  
れず、沖縄を愛する気持ちいしずえを礎に観  
光企業におけるグローバルリーダーを  
目指すことは、私たちのやりがいであ  
り、責務なのです。





## 感謝の気持ちをもつ

私たちが今日あること、そして存分に働けることは、お客さま、関係のみなさま、職場の仲間、家族といった周囲の多くの人たちの協力やサポートがあるからこそです。そのいずれかひとつが欠けても今の私たちはないはずで、そのことを常に心に留めて毎日をご過ごしていくことで、お客さまだけでなく、周囲のあらゆる人に対して、自ずと心から感謝の気持ちが湧き出てくるようになるのです。

謙虚な姿勢を忘れていないか、また、心からの感謝の気持ちをもっているのか、常に自分自身を振り返ることが大切です。形だけの「ありがとう」は相手に伝わるものではありません。

常に謙虚で素直な気持ちをもち、周囲の人に感謝することは、毎日の仕事を、そして自分自身の人生を明るく、幸せなものにするのです。

## お客さま視点を貫く

私たちは「迎恩の心」を掲げ取り組んでいますが、本当の意味でのお客さまの目線、「お客さま視点」は達成できているのでしょうか。私たちがお客さまのために良かれと思ってしているサービスは、実は私たちの自己満足になっていないのでしょうか。

直接お客さまと接するスタッフに限らず、私たち全員がお客さまのご意見・ご要望に真摯に耳を傾けることが必要です。お客さまの期待は何に向けられ、何がお客さまに喜んでいただけるのか、それぞれが自分のもち場で常に分析し、実践につなげる努力を続けなければならないのです。

お客さまに心から喜んでいただき、感動していただけるサービスを実現するためには、私たち一人ひとりがお客さまに寄り添い、自ら考え行動するこ

とが肝要<sup>かんよう</sup>です。特に直接お客さまに接するスタッフは、その場その場でお客さまが何を望まれているかを丁寧にくみ取り、一番好ましい形で実現していきましょう。お客さまの想いやニーズを、心で感じ取って心を込めてお返しすることが何より大切なのです。お客さまの感動は、そのまま私たちの感動でもあり、モチベーションの源泉となります。

お客さまの想いを素直に読み取れる感性を磨き、感謝の心をもって接することができるよう、自らの人間性を高める努力を日々重ねていくことが不可欠なのです。





## 売上を最大に、経費を最小に

経営することは一見難しく思えますが、シンプルに考えれば、いかにして売上を大きくし、いかにして経費を小さくするかということに尽きます。利益とは、売上から経費を引いたものですから、私たちは、この『売上を最大に、経費を最小に』の一点に、集中すればいいのです。

売上を最大にするにあたっては、「客室を1室でも多く販売し、ゲストを一人でも多くお迎えし、そして少しでも高く」売る意識をもつことが必要です。売上を上げるのに安易な方法はありません。営業にたずさわるスタッフは、売上最大に向け、誰にも負けない努力を重ねる必要があります。また、直接お客さまに接するスタッフは、真心をこめて奉仕することで、お客さまの信頼を勝ち取っていかねばなりません。そして私たち全員が、日々商

品、かりゆしの価値を高めるよう努め、売上の最大化を目指さなければならぬのです。

一方、経費を最小にするにあたっては、全員がいくら経費を使っているかを肌感覚で理解できることが重要です。毎月、どの項目に、いくらを経費を使っているかということを、数字で「見える化」することで、自分の日々の業務のために、それぞれいくらを経費を使っているか、タイムリーに細かく把握することができるのです。そうすれば職場の全員が、どの経費をどう減らせばいいか、具体的な対策を考えることができるのです。

私たち全員で『売上を最大に、経費を最小に』を目指すこと、それがかりゆしを高収益企業へと発展させる最も確実な方法なのです。

## 採算意識を高める

私たちは、一民間企業の社員として、常に強い採算意識をもたなければなりません。一般的に、採算意識が希薄な企業では、売上目標の達成が困難な状況にあっても、費用については「予算＝既得権益」という感覚で、100%使い切ることに何の疑問も感じないことが多いのではないのでしょうか。しかし、それでは決して高収益な企業体質を築くことはできません。

企業として売上目標が達成できない状況であったとしても、経費を削減することで、利益目標を死守することは可能なはずで、売上と経費の差である利益を意識し、計画した利益目標を必ず達成するのは当然ですが、私たちはどのような状況であっても、この利益が最大限になるよう努めていかななくてはなりません。その積み重ねによ



り、内部留保が厚くなり、イベントリスクに耐えられる強固な基盤が作られるのです。

また、経営の数字は、期末や月末に突然作られるものではありません。毎日の企業活動の中で発生する売上と経費を積み上げたものです。「この作業に人件費はどれぐらいかかっているのか。もっと人や時間をかけないで実施する方法はないだろうか」、そういったことに関心をもつことにより、採算意識が高まっていくのです。

そのためには、私たち全員が経営に参画しているという強い自覚をもたなければなりません。



## 公明正大に利益を追求する

会社は利益を上げなければ成り立ちません。厳しい競争環境の中で、全社員が公明正大な方法で、必死な努力を重ね、結果として得た利益は尊いものです。

その利益の中から税金を納め、社員の給与を支払い、株主への配当を行い、将来の投資などに備えることができるようになります。また、利益の一部を内部留保として蓄積し、財務体質を強化することで、景気や国際情勢などさまざまな予期せぬイベントにより業績が悪化しても、それに耐えることができるようになります。その結果として、社員が安心して誇りをもって働き、社会へ貢献する企業となっていけるのです。

## 正しい数字をもとに経営を行う

会社が事業を行った結果である会計の数字が、日々どこに、どんな経費が、いくらかかっているか、日々の売上がどれくらいあがっているかが正確に、タイムリーにわからなければ、正しい経営の判断をすることはできません。この数字がどんぶり勘定でいい加減なものであれば、判断を誤り、目標を達成できなくなってしまうのです。

経営において、企業の実態を表す真実の数字はひとつしかありません。後から修正できるものであってはならないのです。

正しい数字を把握するためには、「一対一の対応の原則」と「ダブルチェックの原則」を貫くことが欠かせません。「一対一の対応の原則」とは、現金あるいは物の動きと伝票の処理を、一対一に対応させ、同時に実施

することです。この原則を徹底することで、実態に即した正しい数字が現れるのです。また、「ダブルチェックの原則」とは、会社のお金等を扱う際に、複数の部門や人が関わって処理することです。実行に手間はかかりますが、これを徹底することで、ミスや不正を未然に防ぎ、社員を守ることができるのです。

私たちは、このように経営の数字を日々意識しながら、それぞれの部門で正しい経営判断を行わなければなりません。





## 最高のバトンタッチ

私たちは、心から信じあえる仲間づくりを目指し、これをベースに仕事をしていきます。ここでは、権力や権威に基づく上下関係ではなく、志を同じくした仲間が心をひとつにして行動するという横の関係が基本となっています。

かりゆしにお客さまをお迎えし、ご満足いただくために、どれだけの仲間が力を注いでいるか思い浮べてみましょう。営業・予約に始まり、宿泊・料飲・マリン・エステ・婚礼といった直接お客さまに接するスタッフ、フードサービス・清掃・営繕・ファーム・エンタメ・外販事業のスタッフをはじめ、財務・企画や支援に当たる事業管理部門のスタッフも含めれば、かりゆしグループの仲間全員が関わっています。



毎日のそれぞれの業務は、まさにこの仲間がバトンをつなぐように実現されていくのです。ですから私たちは、常に次にバトンを受け取る仲間のことを思い浮かべながら、部門や職種を越えてどう連携できるかを考えてみましょう。ちょっとした工夫や思いやりが、次の仲間にさらに頑張るエネルギーを与えるのです。『最高のバトンタッチ』ができるよう、全員が心をひとつにして、仲間を信頼し、思いやりの心をもってサポートしていきましょう。

私たちが志を同じくした仲間として、共通の目的に向かって一丸となつて邁進まいしんすることで、お客さまにとって最高のサービスや商品が生み出されるのです。



## ベクトルを合わせる

野球やサッカーなどの団体競技を見ればよくわかりますが、各選手が自分のアピールだけを考えてプレーしているチームと、すべての選手が勝利に向かって心をひとつにしているチームでは、結果は大きく違います。

会社も同じです。社員がバラバラな考え方のままで行動したら、力が分散してしまい、 $1+1$ が2にもなりません。しかし、社員全員が同じ考え方をもち、その力を結集すれば、何倍もの力となって驚くような成果を生み出します。 $1+1$ が2ではなく、5にも10にもなるのです。

常に価値観を共有して、全員のベクトルを合わせ、共通の目標に向かって全員の力を一致させることで、目標の達成がより確実なものとなっていきます。

## 現場主義に徹する

企業は現場が基本です。何か問題が発生したとき、何か新しいことを始めようとするとき、まず何よりも現場に立ち戻ることが必要です。現場を離れて机上でいくら理論や理屈をこね回してみても、決して問題解決にはなりません。

よく現場主義という言葉は語られますが、本当に本社や間接部門と現場が本音で語り合い、かりゆしとして目指すものを現場に根ざして創り上げているのでしょうか。

「現場は宝の山である」とよく言われるように、現場には問題を解決するためのカギとなる生の情報が多く隠されています。絶えず現場に足を運び、私たち一人ひとりの現場感覚をさらに磨いていきましょう。

現場だからこそ見出せる問題解決の

糸口、新しいアイデアを現場は提言し、自らの責任で実行していかなければなりません。現場の声を活かしていくことで、企業はさらに強くなっていくのです。



## 真のリーダーになる

組織を運営していく上で最も重要なことは、それぞれの組織の長に本当に力がある人がついていることです。本当に力のある人とは、職務遂行の能力とともに人間的な魅力があり、部下から尊敬され、部下との間に信頼関係を築ける人です。そして、自分のためではなく、みんなのために自分の力を発揮しようとする人です。こうした人が組織の長として機会を与えられ、その力を十分に発揮できるような組織風土でなければなりません。このようなリーダーによって組織の運営が行われれば、その組織は強化され、最終的にはみんなのためになっていきます。

年齢や経歴に関わらず、仕事を遂行する能力を高め、人格を磨き、真の実力をつけていった人こそが、リーダーとなる資格があるのです。





## 第4章

### 自律型集団になる

私たちは、いかなる環境・条件の中においても、自らの能力と可能性を最大限に発揮して、一人ひとりが輝く自律型人財集団となることを目指します。

## 自ら燃える

物に自燃性、可燃性、不燃性のものがあるように、人間も3つのタイプに分類することができます。自分で燃え上がることができる自燃性の人、火を近づけると燃える可燃性の人、火を近づけても燃えない不燃性の人です。

何かを成し遂げようとする人は燃えるような情熱をもつ自燃性の人でなければなりません。困難に直面したり周囲から圧力がかかると、私たちは得てして、ひるんでしまったり、妥協をしがちです。しかし、そのような困難なときにこそ不屈の闘争心を持ち、目標に向かって自ら燃え上がることのできる人でなければなりません。

ところが自分を優秀だと思う人ほど、燃える人を冷やかに見たり、他人からどう見られるかを意識したりする行動をとるなど、計算しながら自

分の行動に制約をかける不燃性の人になってしまいがちです。不燃性の人がある集団は、全体で燃え上がることができず、必ずどこかで行き詰まります。

仕事に対して純粹で燃えるような情熱をもてるかどうかは、その人の本気度を表していると言ってもいいでしょう。

私たちは、一人ひとりが自ら考え行動する自律型集団となることを目指します。自ら燃え上がり、さらには有り余ったエネルギーを仲間にも与えることができる自燃性の人と、すくなくとも一緒になって燃え上がることのできる可燃性の人々の集団であれば、必ずものごとを成し遂げることができるのです。

## 渦の中心になれ

仕事はひとりではできません。上司、部下をはじめ、周囲にいる人たちと一緒に協力しあって行うのが仕事です。自分から積極的に働きかけて、周囲にいる人たちが自然に協力してくれるような状態にしていかなければなりません。これが「渦の中心で仕事をする」ということです。

業務によっては、自部門の仕事なのか、それとも他部門の仕事なのか、担当部門がはっきりしない仕事もあります。そのようなときに、その仕事は自分には関係ないと思うのではなく、問題意識をもち、自分から手を挙げ、自分から言い出して、周囲の人たちを巻き込んで仕事をしていくのです。自らが中心になって渦をまくのです。

気が付くと他の人が渦の中心にいて、自分はその周りを回るだけ、いつ

も協力しているだけという取り組みでは、仕事の喜びを得ることはできません。そうであるよりも、自分が渦の中心にいて、周囲を巻き込んでいくような取り組み方をしているほうが、仕事の喜びも、醍醐味もより大きいものになっていくはずです。

仕事の渦をまく際に、年齢や経験は関係ありません。問題意識をもって周囲に働きかけることができ、そこに人が集まってくれば、もうその人が渦の中心になっていくのです。会社に渦をつくっていく人が多くいて、あちらこちらで仕事の渦がまいている、そんな活気に満ちた会社にしていきましょう。



## 強い持続した願望をもつ

高い目標を達成するには、まず「こうありたい」という強い、持続した願望をもつことが必要です。どんな目標であっても、まず「何としてもやり遂げたい」という思いを心に強烈に描くのです。純粹で強い願望を心に抱いて、寝ても覚めても、繰り返し繰り返し考えていると、次第に潜在意識までしみ通っていき、自分をその願望を実現する方向へと自然と向かわせてくれるのです。

高い目標を掲げても、「そうは思うが、現実には難しい」という気持ちが少しでも心の中にあっては、ものごとを成就じょうじゆさせることはできません。自分が信じてもないことに、本気で努力などできないからです。

「まず思う」こと、それがすべての始まりなのです。

## 成功するまであきらめない

人間は弱いもので、計画を達成できないという思いが出てくると、一生懸命理由を探して達成できないことを正当化しようとしています。

困難な状況に遭遇したとしても、決して逃げたり、あきらめたりしてはいけません。成功するまで「まだ何か方法がある」と考え方を変え、必死に努力を続ければ、結果として失敗することはなく、必ず計画を成し遂げることができるのです。

また、「何としても」という強い思いをもち、<sup>しんし</sup>真摯な態度で懸命に努力を続けていると、普段見過ごしていた現象にハッと気付き、解決の糸口が見つけられるものです。

成功するには、自分の可能性を信じ、「熱意」をもって、粘り強く、泥臭く、最後まであきらめずにやり抜く



こと、つまり『成功するまであきらめない』ことが必要です。

特にリーダーは、燃えるような気持ちをもって、「必ずやり遂げてみせる」という強い意志で、目標の達成へと導いていく必要があるのです。



## 有言実行でことにあたる

私たちは「有言実行」を大切にしていけます。

自分の思いや目標を言葉にして語りましょう。言葉にして宣言することは大変勇気がいることです。しかし、宣言することで、まわりと自分の両方からプレッシャーをかけ、自分自身を奮い立たせるとともに、自らを追い込むのです。言葉にしたことは約束であり、全うする責任を伴うことは当然なので、必ずやり遂げなければならなくなるのです。

朝礼・ブリーフィングやミーティングなど、あらゆる機会をとらえて、進んで自分の思いや目標を言葉にしましょう。みんなの前で明らかにすることで、実行のエネルギーとするのです。



## スピード感をもって決断し行動する

仕事をしていく上で、いかに素早く正しい意思決定ができるかは重要です。

世の中は変化し続けているので、スピード感をもって決断・行動していかなければ、時代に取り残されて、厳しい競争に勝ち残ることはできません。必要以上に根回しを行ったり、結論を出すことなく延々と会議をしたりしている時間はありません。私たちがいかに厳しい環境にあるかを自覚した上で、時間の価値を意識し、組織の垣根を越えて本音で議論していきましょう。

勇気をもって「人間として何が正しいか」という基準で判断し、結論が出れば、それに基づき一致団結してすぐに行動に移すことが必要です。

## 真の勇気をもつ

仕事を正しく進めていくためには勇気が必要です。普段私たちは、周囲の人から嫌われないように、言うべきことをはっきりと言わなかったり、正しいことを正しく貫けなかったりしてしまいがちです。困難な道の方が正しいと分かっているながら、結局安易な道を選んでしまい、後になって「勇気をもって正しい道を選ぶべきだった」と悔やんだりするのです。

私たちは一般的に、困難なことや新しいことに対して、リスクも顧みず勇猛もうに、自ら進んで手を挙げて取り組もうとするような人を勇気のある人と思いがちです。

しかし「真の勇気」とはそういった豪傑こうけつといわれる人のもっている勇気とは違います。お客さまに安心して楽しくおくつろぎいただくために、私たち

は、使命感や責任感をもって安全安心を優先する行動をしなければなりません。これも「真の勇気」なのです。

「真の勇気」とは、状況を冷静に判断し、リスクも十分理解した上で行動する人が、場数を踏むことで身につけたものであり、最後まで信念を貫くことができる人がもてるものなのです。







## 昨日よりは今日、今日よりは明日

私たちは日々同じ仕事を一生懸命繰り返してあげればいいと思いがちですが、そうではありません。与えられた仕事を一生懸命行うことは大切ですが、漫然まんぜんと同じことを繰り返しているだけで、果たしていいのでしょうか。

それぞれの職場で、全員が創意工夫を続け、常に新しく創造的なものを生み出して、付加価値を高めていかなければ、厳しい競争に勝っていくことはできません。

そのためには、毎日の仕事の中で、常に「なぜ」という疑問をもち、「もっと良い方法はないだろうか」ということを考え続けることが大切です。どんな職種・仕事にも、まだ改善・改良の余地はあると信じ、『昨日よりは今日、今日よりは明日』と、常に創意工夫を重ねるのです。今の仕事に満足してし

まうのではなく、ほんのわずかな改善・改良でも、日々積み重ねていくのです。

そのような一人ひとりの小さな創意工夫の積み重ねが、すばらしい進歩につながり、自身の成長とともに企業価値を高めていくのです。

## 楽観的に構想し、悲観的に計画し、 楽観的に実行する

新しいことを成し遂げるには、まず「こうありたい」という夢と希望をもって、楽観的に目標を設定することが何よりも大切です。新しいこと、革新的なことをしようとする時に、それがどのくらい難しいことを先に頭で考えてしまって、結局何にも取り掛かることができないのでは成功などありえません。まずは着手しなければ何も始まらないのです。

自分たちには無限の可能性があると信じて、「必ずできる」と自らに言い聞かせ、自らを奮い立たせ構想するのです。

しかし、計画の段階になったら、「何としてもやり遂げなければならない」という強い意志をもって、慎重に構想を見つめなおすことが大切です。どこにどういう障害があるのか、起こ

りうるすべての問題を想定して、対応策を慎重に考え尽くし、準備を万端にしなければなりません。

そうして実行段階においては、腹をくくり、「必ずできる」という自信をもって、楽観的に明るく勇気をもって実行していくのです。



## 見えてくるまで考え抜く

全く新しい仕事に臨むとき、イメージトレーニングが欠かせません。あらゆる角度から考えられるすべての要素を頭に入れて、シミュレーションを繰り返すことで、その結果が見えてくるという心理状態にまで達することができます。

どんなに高い目標であっても、シミュレーションを繰り返し、真剣にこうして、ああしてと詳細にプロセスを頭の中で何度も繰り返し考えていると、ついには現実との境がなくなります。まだやってもいないことがあたかもやれたかのように感じられ、次第にやれるという自信が生まれてくるのです。

こうした「見える」状態まで深く考え抜いていくことで、前例のない仕事、創造的な仕事、困難な仕事をやり遂げることができるのです。

## 果敢に挑戦する

人はついつい現状に満足し、変化を避ける傾向があります。しかし科学技術は進化し、お客さまの期待・ニーズも変化していきます。私たちも、過去にこだわることなく進化し続けなければ、会社の発展どころか維持さえもできなくなってしまいます。お客さまのニーズを果敢に先取りして、常に新しい価値を創造していくことが不可欠なのです。

挑戦とは高い目標を設定し、現状に満足せず、常に新しいものを創り出していくことです。挑戦という言葉は勇ましく響きのいい言葉ですが、戦いを挑むという意味であり、裏付けが必要です。いかなる困難にも立ち向かう勇氣、どんな苦労をも厭いとわない忍耐と努力が必要です。

私たちの会社は、沖縄の観光ホテル



の歴史をスタートさせました。人がまだやっていないこと、誰も通ったことのない道を、自ら切り拓いてきました。このような開拓者の意識をもち続けなければ会社の発展はありません。

全く新しいことに挑戦することは、現状を維持する、あるいは他社に<sup>ついで</sup>追随することに比べるとリスクも伴い、周囲の理解も得られず大変な苦勞を伴うかもしれません。しかし反面、これをやり遂げたときの喜びは何ものにも代えがたいものがあります。

失敗を恐れず、全く新しいことをやってみる。「かりゆしは常に進化している」と言われるぐらい新しいことに果敢に挑戦していきましょう。

## 高い目標をもつ

自分の人生や仕事に対して、自分はこうありたい、こうなりたいという大きな夢や高い目標をもつことが大切です。高い目標を設定する人は大きな成功が得られ、低い目標しかもたない人はそれなりの結果しか得られません。

ただし、高い目標を目指すには、それなりの準備が必要です。登山を例にとると、どの山に登るか、ということで登山者の準備、心構えが変わってきます。低い山に登るのであれば軽装でピクニック気分でもいいでしょうが、高く険しい山に登るとなれば、それ相応の準備や心構えが必要となるのです。

仕事、人生においての目標も同じです。自ら高い目標を設定するのであれば、そのために必要な考え方を学ばなければなりません。そして実現への強

い思いをもち続け、一步一步誰にも負けない努力を重ねていけば、それが高く険しい山の頂上であっても必ず到達できるのです。

私たちは経営理念に定めた、「海」「地」「空」「天」を礎に、かりゆしグループの行動憲章・モットーである「和」「真心」「努力」「感謝」の心をもって、「人・夢・未来」を大切に、「夢・創造企業」を目指します。

全員が心をひとつにして、この高い山、目標に向かって努力を重ねていけば、必ず実現することができるのです。

メモ

メモ

メモ

## かりゆしフィロソフィ手帳

---

2022年10月1日 第1版 第1刷 発行  
〈非売品〉

発行 かりゆしグループ  
HRM人財開発部（著作権所有）  
〒904-0401 沖縄県国頭郡恩納村名嘉真2591-1  
電話（098）967-8801（代表）

◎無断転載複製を禁ず

---

この手帳は私にとって大切なものです。  
もし拾われた時は、下記までお知らせください。

---

所 属

---

氏 名

---

社員番号

---

電話番号

---